

Chapter 4

ウェグナーの椅子 1945-1990 年 Hans J. Wegner's Chair 1945-1990

この空間では、1940年代から1990年代を10年ごとにカーペットでゾーニングしながら、100を超えるウェグナーの椅子と家具を、年代を追って紹介する。ここからは「リデザイン」を基本としたウェグナーのデザインの系譜のみならず、家具製造をとりまく状況の変遷も浮かび上がってくる。職人の手で笠木が削り出された《ザ・チェア》(1949年)と、《イージーチェア GE530A》(1970年)といった1960年代後半から多用されるプライウッド製の椅子を見比べると、製造工程の機械化、木材の供給状況、職人の技術力の変化が読み取れる。事実、1970年代以降はデンマークの家具製造の衰退期にあたり、ヨハネス・ハンセンをはじめとする多くの工房が閉業に至った。

時代の変化こそあったが、ウェグナーの多くの作品には製造時期を問わずハンディクラフト的な味わいがある。そして今日もウェグナーの椅子を手掛ける各メーカーは、製造工程をアップデートさせながら、手触りや座り心地といった感覚に訴えかける良質な仕上がりを守り、その魅力を伝え続ける。

彼の椅子が今日まで愛され続けるのは、ウェグナーという実直なデザイナーの営みが一脚一脚の椅子に見出せるからに違いない。椅子をめぐる、この1人のデザイナーの長く深い探求は、まさに唯一無二のものであった。